

水稲 雹害後の対策について

令和5年8月3日

J A たかさき

西部農業事務所普及指導課

◎7月31日17時15分から17時55分ころ、高崎市で降雹がありました。雹の大きさは、小豆大から2cm、大きいものはピンポン玉大くらいでした。水稲の被害は、葉や茎の損傷が見られました。

以下のことに注意して管理してください。

(1) 分けつ期で茎葉の切・折損等が認められる場合は、草勢回復を図るため、10aあたり窒素成分量で2kg程度追肥する。なお、葉色が濃かったり、過繁茂ほ場での施用は見合わせ、間断かん水や飽水管理による水管理を行い、根の活力維持で回復を図る。

※飽水管理：自然減水し、溝や足跡の底に水がたまる程度になったら、かん水する水管理のこと。

(2) 幼穂形成期以降で茎葉の切・折損等が認められる場合は、葉面からの蒸散作用が激しくなり、穂の形成に影響を与えるため、当面の間は湛水状態を保つ。

(3) いもち病・白葉枯病の常発地では、本病の発生が心配されるので適用薬剤を散布し、発生の予防に努める。

被害の状況

